

第4群（活動報告）

「医療・福祉の就職説明会」in気仙沼について

〇リハビリテーション支援センター 技師 片淵千明

村上澄恵, 佐々木千尋 気仙沼保健福祉事務所(気仙沼保健所) 吉田信三, 粟津正貴

キーワード:人材確保, 地域偏在, 多機関連携

I はじめに

本県におけるリハビリテーション専門職（以下「リハ職」）の数は、人口10万人比で、病院の理学療法士で全国順位43位など、全国と比較して少ない。当センターでは、人材確保対策として、平成18年度より、リハ職対象の就職説明会を県庁で開催しているが、仙台近郊に希望が集中するなど地域偏在が見られていた。一方、「気仙沼圏域介護人材確保協議会」のアンケート調査¹⁾では、リハ職だけでなく、看護職・介護職も同様の傾向が見られ、気仙沼保健福祉事務所と協同で、多職種の人材確保に向け就職説明会を開催したので報告する。

II 方法

平成28年10月2日（日）、気仙沼保健福祉事務所を会場に、求人資格を作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、看護師（准看護師を含む）、介護福祉士とした『「医療・福祉の就職説明会」 in 気仙沼』を開催した。求人対象は、平成28・29年度に採用予定の気仙沼圏域にある医療機関、介護サービス・障害福祉サービス事業等を運営する法人等（以下「法人等」）で、求職対象は、上記資格の養成校在学中で平成28・29年度卒業見込者・有資格者、および福祉の仕事に関心のある方（以下「就職希望者」）とした。

III 活動内容

(1) 事前調整

実施方法の変更及び職種拡大に伴い、庁内関係各課、宮城県福祉人材センター及びハローワーク等と連携し、開催方法や周知先の検討及び役割分担を行った。就職希望者への周知は、養成校への通知が中心であったが、地元新聞やラジオ等のメディア活用により、気仙沼圏域での周知を積極的に行った。併せて、仙台からの無料送迎などにも配慮した。

(2) 説明会当日

午前は、プレゼンテーション形式の「採用法人等3分PR」（以下「3分PR」）と、法人ごとの「個別面談コーナー」を行った。14法人（24事業所、求人総数87名）の参加に対し、就職希望者65名（作業療法士5名、理学療法士18名、言語聴覚士1名、看護師（准看護師を含む）31名、介護福祉士6名、一般4名）であったが、来春就職予定の学生の参加が少なかった。午後は、新たな試みとして、参加施設を見学できる「医療・福祉の職場見学会」を開催し、7法人に28名が参加した。

アンケートでは、法人等からは「施設を知ってもらい、興味をもってもらうことができよかった」との意見が多く、継続した開催を望む声が多く聞かれた。法人等の人材確保の取組は「養成校の説明会への参加」「養成校への求人票送付」など、例年に比べ取り組んでいる項目が少ないが、今後様々な取組を行いたいという前向きな意見が多かった。就職希望者からは「3分PR」の時間を長くしてほしいとの声が複数聞かれ、「個別面談コーナー」に比べ「3分PR」の満足度が高かった。

IV 考察

地域開催は、地域出身の就職希望者に対し、地域施設をより詳しく知る機会となった。さらに、法人等が互いの人材確保の取組を知ることや、地域養成校と法人等のつながりを作るなどの相乗作用を生むことができた。多職種の人材確保を目指す法人等が、一度にPRできることもメリットのひとつであった。

反省として、開催時期が遅く卒業年次の学生が少なかったこと、高校生へのPRが不十分で参加が少なかったことが挙げられる。今後は、養成校のカリキュラムや就職活動等に関するスケジュールを考慮した開催にすることで、より直接的に地域への就職を促すことができると思われる。

V おわりに

人材確保に向け地域で就職説明会を開催することで、学生のUターンを促すだけでなく、法人等の人材確保に向けた取組の強化や、地域養成校と法人等のつながり作りの効果が期待されることが分かった。今後は、今回の開催を基に他機関と調整し、他圏域での開催を検討していきたいと考える。

VI 引用文献

介護人材に関するアンケート集計結果. 宮城県気仙沼保健福祉事務所. 2016-7